

ノリ養殖がスタートしました

有明海ではノリ養殖が盛んに行われており、長崎県では11月1日にノリ養殖の網に種を付ける採苗が開始され、今シーズンのノリ養殖がスタートしました。

長崎県では干潟で行う野外採苗を行っていて、干潮の時間帯に30枚ほど重ねたノリ網に落下傘と呼ばれるビニール袋をぶら下げ、落下傘の中に海水とノリの種（殻孢子）を出すカキ殻を入れます。海水が満ちてくると、ノリ網は海中に沈み、朝になるとカキ殻からノリの種が放出されてノリ網に種が付着します。この採苗は生産量に大きな影響を与える非常に大切な作業です。

これから来年の3月頃まで、干潟にノリ網が並んでいる風景が見られます。

※ノリは、春から秋はカキなどの貝殻内部に孢子体と呼ばれる、通常目にするノリとは見た目が全く異なる形態で過ごします。孢子体は、秋になると種（殻孢子）を放出しますが、これが大きく生長して葉状体となったものが私たちが食べているノリになります。



落下傘へのカキ殻入れ①



落下傘へのカキ殻入れ②



採苗の様子



左写真の網の下